

岐阜県立森林文化アカデミー 学校評価 令和3年度 自己評価報告書

1. 学校の教育目標

森林や木材に関わるさまざまな分野で活躍する人材を育成することを目的として総合的な教育を行う。

「森と木のクリエイター科」は、特定分野における高度な専門知識と、問題解決のための企画力、想像力をもったスペシャリストを養成する。

「森と木のエンジニア科」は、林業・林産業に関わる幅広い知識、技術を学んだうえで、現場で高い安全性と経済性を両立できる技術者を養成する。

また、県民を対象に森での学びを提供する「生涯教育（森林総合教育センター（morinos）」や、専門技術者を対象に最新の知見や技術を提供する「専門技術者研修」など、幅広い活動を行う。

2. 本年に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

将来に対し県民から必要とされる森林文化アカデミーに進化するため、アカデミーの改革プランに基づき本年度は次の取組みを重点的に実施した。

（1）専修教育部門における令和3年度カリキュラム編成の見直し

専修教育の質的向上を図るため、教務委員会が中心となり、授業科目の見直しやシラバスの改良を行いカリキュラム編成の見直しを実施したほか、エンジニア科2年生を対象に、4月には卒業後の就職先の具体的なイメージを描くために、林業・林産業の現場を視察するとともに、1月には、社会人になるための心構えや税金、主権者教育を実施した。

（2）外部委員による学校関係者評価委員会の提言に基づく取組み

森林文化アカデミー学校評価実施要領に基づき、外部委員からなる「森林文化アカデミー学校関係者評価委員会」を実施し、自己点検評価に対する評価と提言の評価結果を、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、学校の運営向上に取り組んだ。

（3）学生の確保 <令和4年度入学定員数の確保（クリエイター科20名、エンジニア科20名）>

クリエイター科では39名の受験者があり、26名が合格（のち3名辞退）し、最終的には23名の入学者を確保することができた。

エンジニア科では35名の受験者があり、24名が合格し、最終的には24名の入学者を確保することができた。

(4) 就職指導強化 <エンジニア科の県内就職率 80%以上>

企業説明会のほか、森林技術開発・普及コンソーシアムの協力を得て、県内企業による就職相談会を強化した結果、エンジニア科の県内就職率は86%と目標の80%を上回ることができた。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策

令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染予防対策等を実施した。

○岐阜県が緊急事態措置区域に指定されたときは、一部授業をリモートで実施したり、授業の延期を行った。

○感染防止対策の実施。

- ・健康チェックカードによる体調管理、マスク着用
- ・教室等の消毒液の設置
- ・密集を避けるため、広い教室での授業実施、バスを2台体制で実施。
- ・学生への支援制度や感染対策などの情報提供を随時実施。

(6) アカデミー創立20周年記念事業の実施

卒業生や在校生のつながりを強め、県内外に情報を発信し、今後のアカデミーの入学者の確保や卒業後の進路などのPR強化を図るため、記念事業を実施した。

○記念式典：令和3年10月20日(水) 歴代学長と知事によるトークセッション

○アカデミーHPに「20周年記念」サイトを開設し、WEB配信

- ・卒業生活躍 YouTube チャンネル：在校生が卒業生にインタビュー(10件)
- ・教員へのインタビュー：在校生が教員にインタビュー(令和3年度公開4件)
- ・森林文化特別記念連続講座：在校生・卒業生が視聴(9回)
- ・お仕事サポートネットワーク：卒業生同士のつながり

○未来の森づくり事業：演習林を活用して、授業の中で学生と共に計画・実践を行い、育林モデルを設定。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価	今年度の取り組み実績、課題、今後の改善方策
1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	<p>森林文化アカデミーは、「森林と人との共生」を基本理念とし、すべての人々が森林と親しく関わりを持ち、森林からの恵みを持続的に享受できる社会づくりを目指して、全国で初めての森林教育・学習機関として平成13年（2001年）に開学した。</p> <p>「岐阜県立森林文化アカデミー条例（平成13年4月1日条例第45条）（以下「条例」という。）第1条及び「岐阜県立森林文化アカデミー学則（平成13年4月1日）（以下「学則」という。）第1条に、目的を明記している。</p> <p>また、本学には、現場で自ら行動できる技術者を育成する「森と木のエンジニア科」と、森と木に関わるスペシャリストを育成する「森と木のクリエイター科」があり、それぞれに求める人物像や学びの特色を明確にするため、平成29年度にディプロマポリシー（卒業認定方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を策定し、学生募集要項に掲載するとともに、本学ホームページに一般公開しているほか、学生に対しては入学ガイダンス等で説明している。</p> <p>入学を希望する学生や保護者等には、オープンキャンパス、エブリデーオープンキャンパス（随時学校見学会）、学園祭、高等学校進路相談会等で本学の理念等の説明を行っている。</p>
2. 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④ 3 2 1	
3. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか	④ 3 2 1	

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(2) 学校運営

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
4. 目的に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	平成 27 年度にアカデミー改革プランを策定し、それに基づき改革項目と進捗管理を行うロードマップを策定した。令和 2 年度より進捗状況一覧表にし、各改革項目の進捗管理を行っている。
5. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	また、毎年、所属目標として重点的に取り組むことが必要な目標や計画を策定している。特に重要な事項については重点施策に位置づけ、定期的な進行管理に努めている。 全教職員に対し、毎年度業績目標を定め、業績評価、能力評価を実施し、学校教育の改善に努めている。
6. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	④ 3 2 1	本学の学則、経営会議規程、運営会議規程、各種委員会規程等を整備し、運営組織や意思決定機能を明確にしている。また、原則毎月 1 回経営会議、運営会議を開催し重要事項について意思決定を図っているほか、各種委員会や教職員会議を開催し教育内容の検討、情報の共有や周知を図っている。
7. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	人事・給与等に関する規程は、県において整備されている。
8. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	本学の処務規程を整備し、組織的な意思決定システムを整備している。
9. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	対外的なコンプライアンスは県立学校として県に準じて整備している。
10. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	本学の概要や教育方針、活動報告、キャンパスライフ等については、ホームページ上で常時公開している。(活動報告：222 件) また、公式 SNS を開設し、情報公開している。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(3) 教育活動

評価項目	評 価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
11. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	森林文化アカデミー改革プランに基づき、エンジニア科は平成 27 年度から 2 年次を「林業コース」と「林産業コース」の 2 コース制とし、クリエイター科は平成 29 年度から「林業」「森林環境教育」「木造建築」「木工」の 4 専攻とし、課程ごとに専門的な人材を育成することとする教育課程の編成・実施方針を策定した。
12. 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	森林文化アカデミー改革プランに基づき、平成 28 年度、29 年度の 2 か年間でカリキュラム編成の見直しを実施した。
13. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	④ 3 2 1	令和 3 年度も授業アンケート結果や教務委員会などでの検討をもとに、科目や授業内容を再検討しカリキュラム編成を見直した。
14. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	<p>現地現物主義として実践教育に重点を置いた教育体系を取っている。</p> <p>企業インターンシップはエンジニア科では必須、クリエイター科では選択して実施できるようカリキュラムが整備されている。</p> <p>各分野の専門家や実務者を非常勤講師として招き、実践的な職業教育が受けられるよう体制整備がされている。</p> <p>関連分野の企業を集めて学生向けに行う企業説明会(3回)や、企業の代表者による学生との意見交換会（キャリアカフェ）（6回）をカリキュラムに位置付けて実施している。</p>
15. 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	<p>各授業について、学生アンケート（授業評価）を授業終了後実施している。回答方法として、紙だけでなく、Google フォームでも実施し、回答しやすくしている。</p> <p>授業ごとに 11 の質問項目を設定し、4 段階で評価するとともに、改善点を記述するようにしており、その結果を教員に還元して授業改善に努めている。</p>

評価項目	評 価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
16. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取入れているか	④ 3 2 1	関係する業界等から意見・提言を取入れ、常に改善を行いながら授業や実習等に取り組んでいる。令和3年度に開催した学校関係者評価委員会の委員と意見交換を行った。
17. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	成績評価・単位認定・卒業要件は学則に規定するとともに、これらをガイドブックに記載し学生に配布して適切に運用している。卒業認定は卒業認定会議により審議・決定している。
18. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	資格取得に関する案内は、ガイドブックに記載し学生へ配布して周知している。 資格取得にかかるカリキュラムを体系的に編成し、授業・実習を行うことで資格取得を促進している。また大型特殊やフォークリフト等外部機関による免許取得を促進するため、カリキュラムの配慮や授業等による支援を行っている。
19. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	林業、森林環境教育、木造建築、木工の4分野において、専門的知識・技術を有する専属の教員を17名確保し、教育を行っている。 また、授業以外にも、市町村や企業から研究を受託し課題解決に向けた取り組みを行っているほか、自主的な教員研究も実施し、教員の能力向上に努めている。 なお、教員が取り組んでいるプロジェクトや研究を取りまとめたアニュアルレポート（年1回）を発行している。
20. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（非常勤講師等を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	関連業界や各分野で活躍している専門家や実務者約50名を非常勤講師として招き、幅広く多様な教育を実践している。 また、各業界で活躍している3名の特別招聘教授、1名の名誉客員教授、4名の客員教授、2名の特任教授から専門的な立場での授業・指導等を行っているほか、連携協定を締結している企業の社員による授業・実習を実施した。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(4) 学習成果

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
21. 就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	<p>令和3年度就職率は、(進学を除く、起業を含む)は、クリエイター科は78%で、エンジニア科は95%だった。今後も就職率100%を目標に企業等とのマッチングや就職相談会等に取り組んでいくとともに、学生の面接指導なども行っていく。</p>
22. 在学生、卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	<p>在学生については、教育活動や社会活動等で他の模範となる学生を表彰する規程を設け毎年表彰しており、令和3年度は、学長奨励賞5名を選出し表彰した。また、学外からも表彰(「森林GISフォーラム学生コンテスト2022 優秀賞」「岐阜県伐木安全技術評価会 新規技術者部門 優勝(卒業生)、第2位(在校生)」等)を受けた学生がいた。</p> <p>卒業生の活動や取組みについて、可能な限り把握して本学ホームページや学校紹介パンフレット等において随時紹介している。また、卒業生とのネットワークを活用し、在学生の就職支援や研究活動支援等に役立っているほか、実務・実践者として本学の非常勤講師に任命し授業や実習、専門技術者研修の講師などを担当してもらっている。</p> <p>20周年記念事業として、卒業生(664人)へ近況報告等を依頼した。その結果、連絡先を報告してくれた卒業生は、192人だった。</p> <p>また、「#森林文化アカデミー卒業生」として、Youtubeなどに投稿してもらい、引き続き、卒業生とのつながりを持ち、活躍状況を把握していく。</p>

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(5) 学生支援

評価項目	評 価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
23. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	<p>本学では、キャリア支援委員会を設け、各専攻の先生と連携し学生の就職相談や就職支援を実施している。また、授業でもキャリアデザイン、企業研修、インターンシップ等の就職支援授業を実施するほか、森林技術開発・普及コンソーシアムとも連携しながら企業の担当者を招いて行う企業説明会を実施し、就職活動につながる支援を行っている。</p> <p>学校に来た求人情報（87件）は、随時、学校の掲示板に掲載するとともに、学内システムに投稿し、常時閲覧できるようにしている。</p>
24. 学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	<p>エンジニア科・クリエイター科の両学科主任科長のほか、エンジニア科では林業コース長・林産業コース長、及び各学年担任を、クリエイター科では4専攻主任を配置し学生の生活指導や相談体制を整備している。科長を中心に年に2回個別面談を実施している。</p> <p>また学内に相談室を設け、専門カウンセラーによる相談を受けられる体制を整備している。(月1回)</p>
25. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	<p>本学単独の特別給費制度、県内金融機関3行による給付型奨学金制度、地元篤志家による給付型奨学金制度により学生への経済的支援体制を整えている。</p> <p>また、国の「緑の青年就業準備給付金制度」や日本学生支援機構の奨学金制度も採用し学生への支援を行っている。</p> <p>令和2年度より「大学等における就学の支援に関する法律(令和元年法律8号)」に規定する授業料減免制度を整備している。</p> <p>さらに、連携協定を締結している市町村等の協力を得て、本校学生向けに独自の支援制度(給付型奨学金または補助金)を創設し、学生に対する経済的支援に取り組んでいる。現在、6市町で実施しており、今年度は、3名が本制度を活用している。</p>
26. 学生の健康管理を担う支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	<p>年1回の定期健康診断を義務付け実施している。また学内に保健室を設置し体調不良の際に利用できるよう体制を整備している。</p>
27. 保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1	<p>体調不良や怪我をした場合、適宜保護者へ連絡することとしているほか、欠席が多いなど問題のある学生に対しては、ただちに保護者へ連絡する体制を整備している。</p>

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
28. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	大学卒業程度や社会人経験者を対象として2年間のプログラム「森と木のクリエイター科」があり、高度な専門技術や地域社会への貢献など、社会人向けの教育環境が整備されている。
29. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	④ 3 2 1	毎年、県内の3つの農林高校（岐阜、加茂、飛騨高山）との連携により、本学において林業の実践的な講義や実習を実施しているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、加茂農林高校のみ実施した。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(6) 教育環境

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
30. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1	施設・設備については、本学の専修教育を実施する上で十分な規模を持ち整備されているが、開学から20年以上経過し、屋外の木造個所や設備等に老朽化や不具合が発生している。そのため、予算上の制約もあるが、計画的な修繕に努めている。 今後、大規模修繕計画を作成し、計画的に予算を確保し、施設・設備の改修を行っていく。 学内に Wifi を整備し、情報環境整備を行うとともに、リモート授業を実施できるように Microsoft Teams を利用できるように環境を整備している。
31. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1	学内の実習施設や教育器材については、定期的な点検を行い安全性と機能を確保している。 インターンシップについては、本学の制度として確立し、授業の一環として実施している。海外研修については、ドイツのロッテンブルク大学と教育連携により学生研修として整備しているが、令和3年度は、新型コロナウイルス拡大のため中止となった。
32. 防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	学内緊急連絡網、本学消防計画を策定し防災体制を整備している。また、全教職員及び学生を対象とした消防訓練を3月に実施した。 また、演習林内に、ポストを設置し、救急の場合に適正に現場の位置を把握し、速やかに対応できるように消防署と取り決めをしている。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
33. 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	資料請求者に対して迅速な情報提供（学生募集要項等の発送）、オープンキャンパス（7月）や学園祭（11月）での情報提供、学校訪問のほか、東京・大阪にある県の移住相談員の活用など、様々な取組みにより、適宜学生募集活動を実施した。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京や大阪での説明会の開催が困難であったが、オンラインでの「森と木と暮らしの仕事セミナー」をクリエイター科の専攻ごとに計8回行った。
34. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	学生募集時に、学校の特色、教育内容、卒業後の進路、取得資格等を記載した学校紹介パンフレットを配布し学校情報を正確に提供している。また、ホームページ上でも同内容を掲載し情報提供を行っている。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(8) 法令等の遵守

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
35. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和30年法律第162号）第30条に基づき森林文化アカデミーは設置されており、「学校教育法(昭和22年法律第26号)」及び「専修学校設置基準(昭和51年文部省令第2号)」に基づき、組織編制、教育課程、教員、施設及び設備の基準を遵守している。また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第33条及び「条例」の規定に基づき、「規則」を定めており、適切な運営に努めている。
35. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	県が定める個人情報の保護規程に準じて本学で定めた手続きに基づき適正に対応している。
36. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	自己評価については、学内で設置している教務委員会で自己評価の検討を行い運営会議で確定する体制を整備している。また授業評価として学生アンケートを実施しており、この結果を自己評価に反映させるとともに、教員へ還元させ教育内容の向上に努めている。
37. 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	自己評価結果は速やかに本学のホームページで公開している。

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(9) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
38. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	<p>市町村連携事業として、本学と協定を締結した8市町に対して本学の技能やノウハウの提供、教員や学生の派遣を行い、市町等の課題解決の支援を実施している。</p> <p>受託研究(10件)として、市町村や企業等から依頼を受け、課題解決のための研究や取組みを実施した。</p> <p>地域の任意団体が実施する森のようちえん活動に本学の施設や森林を提供するとともに、本学教員による活動実施者への研修や活動支援を行っている。</p> <p>すべての人と森をつなぐ「森の入り口」として、森林総合教育センター(morinos)が、幼児から大人までを対象とした森林教育のプログラムを提供している。</p>
39. 地域住民や県民、専門的実務者等に対する公開講座・教育訓練を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	<p>生涯教育(森林総合教育センター(morinos)として、一般市民や指導者、教育機関を対象とした様々な講座(73講座)や、森林や林業の専門家に対する専門技術者教育(7研修)を計画的に実施している。</p>

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(10) 国際交流

評価項目	評価	今年度の取組み実績、課題、今後の改善方策
40. 留学生等の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	<p>ドイツのロッテンブルク林業大学と教育連携を結び、学生や教員の交流、共同研究や共同研修を実施しているが、今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、お互いの渡航が困難となったが、リモートでのワークショップ(5回)等を実施した。</p>
41. 留学生等の学習・生活指導等について学内で適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	<p>なお、今年度は留学生等の受け入れ・派遣等はなかった。</p>

※評価) 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1